

中学校国語科教育 理論研修会 終了報告

テーマ	主体的・対話的・深い学びへとつなげる授業の在り方	
日時	平成28年11月4日(金)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	安藤 修平 氏 (言語・教育研究集団主宰)	
参加者	約20名	
研修会 の 様子		<p>講師の安藤先生。演題は「主体的・対話的・深い学びへとつなげる授業のために——『走れメロス』を例にして」でした。厳しくも本音で語られ、現状を何とかしたいという先生の熱意が伝わってくる研修会となりました。</p>
		<p>今時の子は「言語得意タイプ(A群)」と「言語不得意タイプ=映像得意タイプ(B群)」の二群に大きく分かれます。我々教師はついA群の生徒向けの授業を展開してしまいますが、それを「全ての生徒が主体的に学びに向かう授業」にするためには、目の前の子どもの特性を理解することから始めることが大切である、とのことでした。</p>
		<p>そして生徒の事実を授業に生かし、楽しく、生徒が主体的に学びに向かうための方策として、「バイパス」を提言いただきました。これは目の前の生徒の特質に合わせた言語活動を設定することで、生徒が自然と教科書と向き合い、教科書や仲間と対話し、結果として深い学びを実現するものです。</p>
		<p>実際に『走れメロス』を例にして、バイパスを用いた3つの指導例を提示いただきました。どの指導例も生徒が「楽しく力をつける」学習活動が展開されていました。「授業で活用してみたい」「自分でもバイパスを考えてみたい」「説明的文章でのバイパス例も知りたい」と、参加者の反応も上々でした。</p>